

タイトル	ものの見方は無限大		
ワークの目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 同じモノや事象に対して多様な見方や捉え方ができることを知り、自分とは異なる見方を尊重する力を養う 		
背景	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段私たちは自分の経験、思い込み、価値観などで構成されたデータベースを使い、簡易的な解釈を行ったり、効率良い行動を促したりしています。 ● このワークでは上記の行動や気持ちが他の人とは違う場合があることを認知し、多様性を認め合う上で必要不可欠な相手を尊重する練習をしていきます。 		
対象学年	小学校低学年	所要時間	15分
準備	題材（絵本、写真、もの（石や野菜）など）、見え方記入シート、ポストイット		
実施内容	支援の観点・留意点		
① 準備			
<p>題材にする絵本もしくは写真、もののいずれかを準備します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 写真を活用する場合は以下リンクを参照してください。 ● What's Going On in This Picture? - The New York Times (nytimes.com) ● 絵本、写真、ものという順に、実施の流れの把握や子供たちから異なる反応を引き出しやすいので、ワークに慣れていない場合は適宜絵本活用もお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> - ヨシタケシンスケさん著書（「りんごかもしれない」） ● 一方で、ワークに慣れておられる場合、もの、絵本、写真という順番で実施することで、単純なものの観察→絵本を活用した同じモノでも想像力を使って他の可能性が考えられることに気づいてもらう→より情報量が多い写真で色々な可能性について考えてもらうというステップを子供たちに踏んでもらうこともできます。 			
② 導入			
今日やることを簡潔に伝える			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「皆で同じ〇〇をじっくり見ます。何に見えるかな？発見があるかな？色々な面白い意見を聞かせてくださいね！」 			
③ ワーク			

題材（絵本、写真、もの）を見て、気が付いたことを書いてもらう	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ● 観察をして思ったことを見せ方記入シート（図1）に書いてもらう ※ポストイットに気が付いたことを書いてもらい、黒板・ホワイトボードなどに貼ってもらったり、ワークシートに一度書いてもらう形式も可能です <ul style="list-style-type: none"> - 「みんなどんな発見があった？あった人は教えて！」 - （絵本、「りんごかもしれない」が題材の場合） 絵本の1、2ページを見せ、「同じりんごでも、色んな見方とか可能性があるね。みんなは、どう思うか書いてみて！」など - （写真が題材の場合）「これは何の写真でしょう？」 - （ものが題材の場合）「○○について思ったこと、気づいたことを書いてみて！色、形、重さ、硬さ、触感、匂い等について「ビ-玉2個ぐらい重いんじゃない？」のように具体的なことを書いてもいいし、「○○は壁のかけらんじゃない？」のようにイメージしながら書いてもいいです！」 <p>発表してくれた人に対して、問いかけを行う（高学年向け）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「なぜそう思ったの？」や「どこを見てそう思ったの？」など深掘りするワークと問いの例（図2を利用した場合） <ul style="list-style-type: none"> - 参加者：「けんかだと思う！」 - ファシリテーター：「どうしてそう思いますか？」 - 参加者：「雰囲気！／なんとなく」 - ファシリテーター：「なにを見てそう思った？人とか服とか」 - 参加者：「人！棒を持ってるし、顔が怖い」 - ファシリテーター：「顔のどこが怖い？鼻？目？口？」 - 参加者：「目とか口。すごく開いてるから」 - ファシリテーター：「なるほど！棒を持ってて、目とか口が大きく開いてるからけんかだと思ったんだね！」 ● 出てきた意見はポストイットに記入し貼っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正解がないことや、異なるモノの見方を楽しむことが目的であることを明確に伝えましょう ● 異なるモノの見方に対して「えー」「変なの！」という反応をする参加者が想定される場合には、「他の人が自分と違う意見だったら、‘なるほど！そういう見方もあるよね！’と言ってみましょう」などと事前にルールを設定します。 ● 具体的な説明が難しそう場合、教室内の他の物と重さ、形、触感などの視点で比較することを促してみてください。
<p>④ 振り返り</p>	

<p>同じモノや事象に対して多様な見方や捉え方ができることを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 「（ポストイットやシートを見せて）同じ物でも、人によっていろんな見方ができましたね。私は皆の色々な意見を聞いて、面白いと思いました。もし、皆の見方が同じだったら、楽しみも減って、新しい発見も少なくなるんじゃないかな。皆はどう思いますか？今日は自分とは違うモノの見方を聞いて楽しかったですか？新しい発見はありましたか？」 	
---	--

扱う題材の例：思い込みって何？、色眼鏡をかけていない？と同じものを使います

	題材例	利用の意図	想定利用シーン
多 ↑ 題材の情報量		<p>児童に色々なものの見方に気付きを生みつつ、本ワークの進め方・発問方法を一通り講師が学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> “りんごかもしれない”などワークの目的と内容が類似する絵本を活用 	講師側の練習
		<p>情報量をフックに児童の興味を引き、日常的にワークに取り組む下地を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報量が多いほど、色々な見方はしやすく、面白い捉え方も出やすい 	児童の惹きつけ
身近なもの ↓ 少		<p>同じイメージを持ちやすいものを題材に、より深くワークの目的を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報量が少ないほど同じ見方をしがち ゆえに、違った見方があることを知ったときの気づきと腹落ちは大きいという想定 	慣れた児童への応用編

見え方記入シート（図1）

見え方記入シート：これってなんだ？

じつは／もしかしたら・・・

_____ じゃない？！

_____ じゃない？！

_____ じゃない？！

_____ じゃない？！

提供・作成：#元しかに、内山唯日

画像例（図2）



提供・作成：#たしかに 監修：内山唯日